

授 業 概 要

秋田情報ビジネス専門学校

科目名	総合実践Ⅲ	
対象学生	高度情報システム科、情報デザイン科、経営情報科	
実務経験		
授業時間数・単位数	30コマ・2単位（左記を標準とし、学校及び個々の学生の状況により変更あり）	
授業方法	講義〔○〕・演習〔○〕・実習〔○〕	
授業の概要	他の科目に分類されない下記のような授業を行います。 1. 学校行事の準備、実施などの総合的な学習 2. 全科目の学習状況を確認し、必要な科目の補習 3. 教育上、有益と認められる知識や技術に関する特別授業	
授業の到達目標	上記「授業の概要」のそれぞれの内容について下記の目標を設けます。 1. 協調性やコミュニケーション力などの育成、及び充実した学生生活を送ること 2. スケジュール管理能力の育成と各科目の遅延回復や弱点補強 3. 特別授業として実施する意義と授業内容の理解	
成績評価方法と基準	成績評価基準は、A(80点以上)・B(60点以上)・C(40点以上)・D(40点未満)とし、平常点によって評価します。	
準備学習・時間外学習		
使用教科書・教材・参考書		
授業上の注意点		
授業計画（内容）		コマ数
(1)球技大会		4
(2)学園祭		4
(3)その他		22
合計		30
授業単位数		2

授 業 概 要

秋田情報ビジネス専門学校

科目名	就職実務	
担当教員の実務経験	ファイナンシャルプランナー、コンサルティング会社経営	
対象学生	総合ビジネス科、情報システム科、高度情報システム科、情報デザイン科、キャリアデザイン科、経営情報科	
授業時間数・単位数	15コマ	1単位
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [] ・ 実 習 [○]	
授業の概要	就職活動に向けてのモチベーションを高めていく	
授業の到達目標	講義、実習、模擬面接を通して今後の就職活動に生かしていくことができる	
成績評価方法と基準	成績評価基準は、A（80点以上）・B（60点以上）・C（40点以上）・D（40点未満）とする。試験結果、出席率、提出物等を総合的に判断して評価する。	
準備学習・時間外学習		
使用教科書・教材・参考書	配布プリント、まとめプリント等	
授業上の注意点		
授業計画（内容）		コマ数
社会人としてのモチベーションの保ち方（事例も交えて）		1
コミュニケーションの取り方（コミュニケーションアップの4段階等）		1
コミュニケーションを円滑にするために（ペーシングとその他のスキル等）		1
社会人としての心構え		1
自己分析と自己PRの仕方と対策、アンガーマネジメント診断		1
ジョハリの窓～実践～		1
会社組織を考える		1
社会人基礎力		1
対人不安の克服の仕方と緊張感を和らげる方法		1
働き方を考える。		1
上司とのコミュニケーションの取り方		1
ブレインストーミングとコンセンサスゲーム～実践～		1
面接に向けての配慮事項		1
～模擬面接～		1
～模擬面接～		1
合計		15
授業単位数		1

授 業 概 要

秋田情報ビジネス専門学校

科目名	就職対策Ⅲ	
対象学生	高度情報システム科３年	
実務経験		
授業時間数・単位数	３０コマ・２単位（左記を標準とし、個々の学生の状況により変更あり）	
授業方法	講義〔○〕・演習〔○〕・実習〔　〕	
授業の概要	就職活動を円滑に進めるための準備と、就業時に必要となる知識を得るためのセミナーなどを行います。	
授業の到達目標	希望企業への採用内定と就業時に必要となる知識を得ることを目標とします。	
成績評価方法と基準	成績評価基準は、Ａ(80点以上)・Ｂ(60点以上)・Ｃ(40点以上)・Ｄ(40点未満)とし、平常点によって評価します。	
準備学習・時間外学習		
使用教科書・教材・参考書		
授業上の注意点		
授業計画（内容）		コマ数
(１)就職活動準備(履歴書等応募書類作成、面接練習など)		26
(２)企業説明会、就職関連セミナー等への参加		4
合計		30
授業単位数		2

授 業 概 要

秋田情報ビジネス専門学校

科目名	卒業研究	
対象学生	情報システム科2年、経営情報科4年、高度情報システム科3年、情報デザイン科	
授業時間数・単位数	45コマ・3単位（左記を標準とし、個々の学生の状況により変更あり）	
授業方法	講義〔○〕・演習〔○〕・実習〔○〕	
授業の概要	在学中に自分が学んだことや身に付けたこと、チャレンジしたことなどからテーマを選び、調査や研究をして報告書を作成する。また、その内容をプレゼンテーションします。	
授業の到達目標	在学中に習得した知識を駆使した研究成果物を完成させ、卒業研究発表を行うことで、計画立案と実行する能力、進捗管理や目標達成の能力を身に付ける。	
成績評価方法及び基準	成績評価基準は、A(80点以上)・B(60点以上)・C(40点以上)・D(40点未満)とし、研究成果によって評価します。	
準備学習・時間外学習	研究活動を行う時間が足りない場合は、放課後等の時間を使って進めること。	
使用教科書・教材・参考書	特になし	
授業上の注意点		
授業計画（内容）		コマ数
1. テーマの選定		2
2. 研究活動		10
3. 研究報告書の作成		10
4. プレゼンテーション資料の作成		15
5. プレゼンリハーサル		4
6. プレゼン本番		4
合計		45
		3

授 業 概 要

秋田情報ビジネス専門学校

科目名	プログラミング応用 (Python)	
担当教員の実務経験		
対象学生	高度情報システム科3年	
授業時間数・単位数	60コマ・4単位（左記を標準とし、個々の学生の状況により変更あり）	
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 []	
授業の概要	Pythonの基本文法を修得済みの受講者を対象としたステップアップ講座である。単に動くコードを書くだけでなく、「保守性・拡張性の高い綺麗なコードの書き方」を学ぶ。また、Web開発、データサイエンス、業務自動化など、モダンな開発現場で必須となる実践的なライブラリやフレームワークの習得を目指す。	
授業の到達目標	オブジェクト指向の概念（クラス、継承、カプセル化）を理解し、大規模なコードを設計・実装できる。外部APIやデータベースと連携した、動的なWebアプリケーションを自作できる。大量データ（CSV、Webデータ）を効率的に取得・整形・可視化できる。Gitを用いたバージョン管理や、適切なデバッグ・テストコードの記述ができる。	
成績評価方法と基準	成績評価基準は、A（80点以上）・B（60点以上）・C（40点以上）・D（40点未満）とする。検定試験・模擬試験結果、出席率等を総合的に判断して評価します。	
準備学習・時間外学習	学習に遅延が発生しそうな場合は、授業時間外にも学習を行う必要があります。	
使用教科書・教材・参考書		
授業上の注意点	Pythonの基本文法（if文、for文、基本的な組み込み関数）を理解していること。コマンドライン（ターミナル／プロンプト）での簡単なディレクトリ移動などの操作ができること。	
授業計画（内容）		コマ数
環境構築とGitによるバージョン管理		3
Pythonの高度な文法		3
オブジェクト指向①：クラスの基本		3
オブジェクト指向②：継承とカプセル化		3
モジュール化とエラーハンドリング		3
総合演習（CUIアプリ開発）		3
ファイルシステムとExcel操作の自動化		3
Webスクレイピング（静的・動的サイト）		3
Web APIの活用とデータ連携		3
データベース連携とSQL		3
総合演習（自動化ツールの開発）		3
高速数値計算（NumPy）とデータ前処理（Pandas）		3
データの可視化と統計データの把握		3
機械学習の基礎（Scikit-learn）		3
Webフレームワーク(FastAPI)の基本		3
WebアプリとDBの連携・自動テスト		3
コード品質管理とデプロイ基礎		3
総合演習：要件定義・設計・開発着手		3
総合演習：集中コーディングとデバッグ		3
成果発表会と全体の総括		3
合 計		60
授業単位数		4

授 業 概 要

秋田情報ビジネス専門学校

科目名	情報処理検定試験対策Ⅲ	
対象学生	情報システム科、高度情報システム科、情報デザイン科、キャリアデザイン科、経営情報科、その他希望者	
実務経験		
授業時間数・単位数	135コマ・9単位（左記を標準とし、個々の学生の状況により変更あり）	
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 []	
授業の概要	情報処理技術者試験を含む情報処理系検定試験の合格を目指す対策講座です。講義やテキスト学習、問題演習を通して知識を身につけ、更に過去問題や模擬試験により理解を深めて試験合格を目指します。 ※2026年度は応用情報技術者試験を対象とします。	
授業の到達目標	対象とする検定試験の合格を目指します。	
成績評価方法と基準	成績評価基準は、A（80点以上）・B（60点以上）・C（40点以上）・D（40点未満）とする。検定試験・模擬試験結果、出席率等を総合的に判断して評価します。	
準備学習・時間外学習	授業時間だけでは問題演習時間が不足するため、授業時間外でも問題演習を行う必要があります。	
使用教科書・教材・参考書	・ 応用情報技術者試験対策テキストⅠ・Ⅱ・Ⅲ、すっきりわかる応用情報技術者 ・ 応用情報技術者試験科目A問題集・午後問題集、過去問題集	
授業上の注意点	受講前に基礎講義及び科目A問題演習が一通り終了していること。	
授業計画（内容）		コマ数
授業オリエンテーション		2
午前問題演習		10
午後実践講義（全6分野）		38
午後問題演習		40
模擬試験1		9
模擬試験2		9
過去試験問題1		9
過去試験問題2		9
過去試験問題3		9
合 計		135
授業単位数		9

授 業 概 要

秋田情報ビジネス専門学校

科目名	各種検定試験対策Ⅲ	
対象学生	情報システム科、経営情報科、高度情報システム科、情報デザイン科	
実務経験		
授業時間数・単位数	30コマ ・ 2単位 ※上記を標準とし、対象とする検定試験や個々の学生の状況により変更あり	
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 [] ※対象とする検定試験により、各授業方法の構成・時間数に変更あり	
授業の概要	就職等に有益な検定試験について、本科カリキュラムに関連する授業がない場合や時期や時間割の制限により受講できない場合などに、学生各自が目標とする検定試験を選定し、学習方法やスケジュールを教員と相談の上、各種教材を利用して学習を行います。	
授業の到達目標	選定した検定試験の合格を目標とします。	
成績評価方法と基準	成績評価基準は、A(80点以上)・B(60点以上)・C(40点以上)・D(40点未満)とし、検定試験合格や模擬試験の結果、平常点等を総合的に判断して評価	
準備学習・時間外学習	授業時間だけでは学習が不足する場合は、授業時間外での学習が必要です。	
使用教科書・教材・参考書	選定した検定試験のテキスト・問題集等	
授業上の注意点		
授業計画（内容）		コマ数
検定試験選定・学習計画立案		2
学習活動(テキスト学習、問題演習)		28
※関連するカリキュラムが他の科にある場合は、極力その授業計画に沿って受講する。		
合 計		30
授業単位数		2

授 業 概 要

秋田情報ビジネス専門学校

科目名	企業研修	
対象学生	情報システム科２年、経営情報科４年、情報デザイン科４年、高度情報システム科４年	
実務経験		
授業時間数・単位数	９０コマ ・ ６単位（左記を標準とし、個々の学生の状況により変更あり）	
授業方法	講義〔 〕・演習〔 〕・実習〔 ○ 〕	
授業の概要	採用内定先企業にて、OJTやOff-JTなどの企業研修を受けます。	
授業の到達目標	企業研修にて学んだ知識や技術を実際に活用し、一企業人として業務に従事することを目標とします。	
成績評価方法と基準	成績評価基準は、Ａ(80点以上)・Ｂ(60点以上)・Ｃ(40点以上)・Ｄ(40点未満)とし、研修先企業の評価と出席率によって評価します。	
準備学習・時間外学習		
使用教科書・教材・参考書		
授業上の注意点	研修先では指示を待つだけではなく、自ら考え行動すること。	
授業計画（内容）		コマ数
採用内定先企業の研修計画に従います		90
合計		90
授業単位数		6

授 業 概 要

秋田情報ビジネス専門学校

科目名	自主課題学習	
対象学生	情報システム科２年、高度情報システム科、情報デザイン科	
授業時間数・単位数	３０コマ・２単位（左記を標準とし、個々の学年・学生の状況により変更あり）	
授業方法	講義〔 〕・演習〔 ○ 〕・実習〔 ○ 〕	
授業の概要	社会人になるにあたり、下記の観点から個人ごとテーマを設定し、各自スケジュールを管理しながら学習活動を行います。 ①専門学校で学習した内容の発展として、更に理解を深めたい知識や技術 ②内定先の業務を行うにあたって、事前に身につけたい知識や技術	
授業の到達目標	社会人になることへの不安を少しでも解消し、自信を持って仕事に就けるようになることを目指します。	
成績評価方法と基準	成績評価基準は、A(80点以上)・B(60点以上)・C(40点以上)・D(40点未満)とし、学習態度、出席率、成果（達成目標）を総合的に判断し評価します。	
準備学習・時間外学習	必要に応じて、学外の図書館を利用したり、内定先企業と相談したりします。	
使用教科書・教材・参考書	各自の設定テーマに関する書籍	
授業上の注意点		
授業計画（内容）		コマ数
テーマ設定・学習計画立案		1
学習活動		29
合計		30
授業単位数		2